

童謡 = 音楽

2日間とも行われた、町の誇る「上野焼」と「音楽」の共演の舞台。ピアニスト・畑野主慧さんのピアノ演奏と町の窯元による大型作品成形。2つの感性が融合した初開催のステージは、町の魅力を掛け合わせ誕生した大茶会を象徴する場面として来場者を魅了しました。



Koyo Kawamura

器 = 上野焼



↑国内線・国際線で毎月360万人以上の閲覧可能数を持つ機内誌「スカイワード」。11月号で上野焼や「ことごと列車」にも焦点をあて、9ページにわたり筑豊の特集。



7度目の開催となる今年、11月9日から2日間行われた「JAL 福智スイーツ大茶会」に、過去最高の3万2千人が福智町を訪れた。



↑「JAL 新・JAPAN PROJECT」の福岡特集に合わせ、JAL機内で流れた福智町のPR映像。



日本航空地域活性化プロデューサー／福智町観光アドバイザー 武知 眞一さん

山口・北九州支店長時代に訪れた福智町に魅力を感じ、イベント企画や調整などまちづくりに尽力。今も地域の魅力を発掘するアドバイザーとして多くの人をつないでいる。

「偶然訪れた福智町で、若い人たちが積極的に活動する姿に心を打たれました。今は私も町のファンの一入です」両者の関係をつないだ日本航空の武知眞一さんは笑顔で当初の印象を語りまます。7年前のこの出会いから始まったJALのサポート。イベント共催、修学旅行でのJAL機利用など関係を深める中で、大きな転機が訪れます。平成30年、町として全国で2例目の包括連携協定締結。長年の信頼が形と

分かれ重ねた成功体験 7年の月日が築いた信頼

客するイベント誕生の原点でした。そして挑戦と成功を重ね7回目の今年、大茶会は世界に羽ばたく大企業・JALの名を冠するまでに成長します。

磨いてこそ輝く町の個性 日常的な魅力の創出へ

「この町には他に無い個性がある。それをどう見つけて、みがいしていくか。成功の2日間に満足せず、残りの363日が課題」。これまでの大茶会の成功で、町の認知度は着実に高まりました。しかし本場の成功は定住・観光につながる。創り上げた1をどれだけ積み上げられるかは、これからにかかっています。

0から1へ

炭鉱から観光へ——。「JAL福智スイーツ大茶会」

物事を成し遂げるとき、最も難しいのは0から1を生み出すこと。7年前、町に立った「福智スイーツ大茶会」という明確なフラッグ。1という数字の存在が、魅力の相乗効果の可能性を高めました。

きっかけは発想の逆転 町のシンボルイベント誕生

陶の里で4百年の伝統を誇る「上野焼」。「かもめの水兵さん」や「うれしいひなまつり」など童謡史に残る名曲を手がけた作曲家「河村光陽」。ともにすぐれた観光資源でありながら認知度は高いとは言えず、観光の柱がないことは長年の課題でした。

その中で生まれた発想の逆転。上野焼本来の用途である「茶陶」から着想を得た、茶菓子「スイーツ」が題材の「平成の大茶会」。県内の菓子店を一か所に集め、町本来の魅力を掛け合わせる。「合わせ技で相乗効果を生む」発想が人口を越える3万2千人を集

意識改革で再建果たしたJAL



かつて経営破綻により会社更生法の適用を申請したJAL。企業理念を実現する「JALフィロソフィ」による全社員の意識改革を行い、3年で東証一部に再上場する異例のV字回復をみせました。その徹底した妥協無き精神は町の模範となっています。

Turning Point つながりが生んだ新企画 スイーツコンテスト初開催

「上野焼とスイーツ」という原点に立ち返り、盛り付けの美しさを競うコンテストを初開催。JALの人脈で豪華18人の審査員が集まり、企画が実現しました。

